



「本校の取組について」

校長 金室紀夫

1 はじめに

昨年4月に本校に着任し、11カ月以上過ぎました。「年齢を重ねるごとに時間が経つのが早くなる」と言われますが、私にとってこの1年は年齢の効果以上に早かった、とすることができます。管理職スタッフをはじめ、教職員、保護者・地域の皆様に恵まれ、とても充実した1年だったからに他なりません。改めて、お世話になった皆様に感謝申し上げます。

2 愛情をもって

時々、教職員へ「児童生徒や保護者の方へ愛情をもって接してほしい」と話をします。私の「愛情」の定義は、「愛情とは、相手に幸せになってほしいという思いであり、その思いに基づく言動のこと」です。だれにでもあることですが、感情的になり強い言葉を発したり、急いでいて気遣いを欠いたりすることがあります。本人は意図していなくても誤解されたり、相手を不愉快な気持ちにさせたりすることがあります。愛情をもって接することができれば、徐々に信頼関係が芽生えてきます。信頼関係に基づき、人間関係を構築することが大切だと考えています。

3 ワーク・ライフ・バランス

昨今、政府主導の「働き方改革」が企業等で進められており、学校においても急速に課題として取り上げられるようになりました。これまでの学校は、保護者・地域の方々のご要望や社会・時代の要請にできるだけ応えようと努め、マン&ウーマンパワーで対応してきた部分もありました。私が教員になったころと比べると、管理職も教職員も仕事量が大きく増え、心身のバランスを崩す教職員の数が全国的に増加しています。

ワーク・ライフ・バランス、仕事と家庭や健康との調和が求められる時代になりました。教職員の負担軽減を図り、心に余裕をもって子どもに接することができる環境を整えることが、管理職の大きな仕事の一つです。もちろん、学校の教育力を一定水準に保つことが必要です。学校の多岐にわたる教育活動において、「幹」に力を注ぎ、「枝葉」の部分は思い切って削減する」「幹」についても改善し、より良い「幹」にしていくことが大切だと考えています。本校では、保護者の皆様のご協力を頂き、昨年10月から留守番電話を導入することができ、とても助かっております。次年度においても「学校の働き方改革」にご理解とご協力を頂ければ幸いです。

4 保護者アンケートの結果を受けて

保護者アンケートにつきまして、ご協力を頂きありがとうございました。今年度のアンケート回収率は85%(昨年度H29:77%)であり、保護者の皆様の意識の高さを感じました。18項目の回答の平均は、「そう思う58.9%(H29:58.6%)」「大体そう思う36.8%(H29:38.0%)」、「そう思う+大体そう思う95.7%(H29:96.5%)」となり、全体的には昨年度とほぼ同様で「保護者の皆様から高い肯定的な評価を受けている」と捉えています。一方で、「あまりそう思わない+そう思わない4.3%(H29:3.5%)」という回答につきましても真摯に受け止め、記述式回答の部分も含め改善に努めてまいります。

5 おわりに

今年度の成果と外部評価を踏まえた次年度の課題については、「学校自己評価システムシート」の形式で裏面に掲載されていますのでご覧ください。

本校は来年2020年に創立10周年を迎えます。10年の歩みをより良い形で発信できるよう、今後も「チームはばたき」全教職員が協力し一体感を持ち、より充実した教育活動を行ってまいります。保護者並びに地域・関係機関の皆様、本校の教育活動充実のために今年度も様々なご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。